



今年の抱負

国家公務員共済組合連合会
名城病院長

早川 哲夫

名城病院では、「良い医療を安全、確実に提供する」ことを病院の使命としております。今年も、この使命を果たすために、医療の質と安全の向上に職員一同努力致します。皆様方の益々のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

一昨年導入した最新式の64列MDCTは画像診断の精度を一段と向上させ、その結果、より適確な治療ができ、皆様方のお役に立っていると思っております。

今年には画像診断のもう一つの有力な武器であるMRIの新しい装置を導入する予定です。MRIはCTとは異なる情報を体からと出すことが出来ます。最近ではMRIの利用が多くなり、予約も二ヶ月先まで一杯という場合が多くなりました。早期診断早期治療のためには、台目が必要です。春には利用できるようにし

たいと考えています。画像診断の精度がこれまで以上に向上し、皆様方の治療に役立つものと期待しております。

また、外来の一部の模様替えを致します。名城病院では病棟の7階に脊椎・脊髄センター、6階に循環器センターがあります。外来も循環器内科の隣に心臓外科を移して循環器センター化する予定です。現在、地下にあるギブス室を整形外科の隣に移し、さらに、整形外科の待ち時間の解消の一助に診察室を増設する予定です。改造工事などご迷惑をかけることがあるかもしれませんが、お許しください。

日頃の健康維持や療養に役立つ話題を選んで、15分〜30分位の簡単な市民公開講座を計画しています。診療の待ち時間中あるいは帰りがけに気楽に聞けるよう

に、平日の午後1階ロビーか地下の会議室で開いてはと考えています。話し手は病院のスタッフを予定しています。皆さんのご知恵を貸してください。

来年も初期研修医7〜8名、2年の研修を終えて専門医をめざす専修医数名を採用予定です。若さあふれる熱心な先生との出会いが増えると思っております。日本の医療の将来を担う星です。旧日本海軍 山本五十六元帥の残した「やってみせて言うて聞かせて、やらせて見て、ほめてやらねば人は動かず」の言葉を思い出して、名城病院のスタッフを応援してください。皆様方の支援により立派な医療人に育ち、名城病院のめざす安全で良い医療を提供できる日は近いと信じます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

展示作品募集!

1階エレベーター西 ミニギャラリー



名城病院では、平成16年5月より1階エレベーターホール西側(内視鏡室前)に患者さんや職員の癒しの場としてのミニギャラリーを開設し、多くの方々からお寄せいただいた作品(写真、絵画、木彫、手芸作品等)を展示してまいりました。しかし先日、通院患者さんより「何年も通院しているが、エレベーターで上り下りしているためか、ミニギャラリーの存在すら知らなかった。すてきな作品展なのだからもっと宣伝してはどうか」という貴重なご意見をいただき、今までの案内が不十分であったことを反省いたしております。今後は更に沢山の方々にご覧いただけるようご案内するとともに、多くの方々にミニギャラリーにて発表していただきたく作品の募集を行いたいと思っております。なお、各作品の展示期間は約1ヶ月単位としておりますので、展示を希望されます方がございましたら、是非ご遠慮なく当院3階事務室(庶務課)までご連絡ください。ご応募お待ちしております。



乾燥性湿疹について

皮膚科 部長
平井 さと子

毎年10月末から11月はじめ、急に寒くなるころ「先生、またかゆくなりました。」とおっしゃって来院される方がふえます。下肢、特にすねの皮膚が乾燥し、粉をふいたようになり、ひびわれ、ところどころ赤くなっています。乾燥性湿疹、皮脂欠乏性湿疹、冬季湿疹などと呼ばれている状態です。皮膚の水分が減少し、乾燥することによって起こります。とくに冬、中高年の方に多い病態です。

皮膚はからだの最外層で、総面積は約1.6㎡、重量は体重の約16%、体の中で一番大きな臓器です。皮膚は、表皮・真皮・皮下脂肪組織の3層からなります。皮膚の乾燥に関係するのは、その最外層の表皮、特に角層です。

皮膚の水分量を維持するためには、角質細胞間脂質（セラミド）、天然保湿因子（NMF）、皮脂等が必要です。冬になると外界の空気の温度と湿度が低くなり、発汗が減ります。また年齢が進むにつれて皮脂の分泌が減り、セラミド、NMFも減少してきます。これら

るといわれています。

乾燥性疾患の予防と治療のための注意事項を挙げます。

1. 入浴について：ぬるめのお湯に入りましょう。石鹸を泡立てて、手でそっと洗いましょう。熱いお湯に長時間はいたり、タオルでゴシゴシこすったりするのはやめましょう。ナイロンタオル、ボディブラシ、垢すりなどは使わないようにしましょう。
2. 石鹸について：ボディソープは皮脂をとりすぎる人が多いようです。ふつうの浴用石鹸で十分ですが、乾燥肌の方は、低刺激性石鹸のほうがよい場合があります。殺菌剤の入った薬用石鹸は刺激することがあり、使わないほうが無難です。
3. 入浴後、乾燥しやすい部位には保湿剤（皮膚の水分を保つ薬）を塗りましょう。病院で処方される薬では、ヘパリン類似物質、白色ワセリン、尿素軟膏などがあります。最近は、よい保湿剤も市販されていますので、かぶれや刺激がなければ、それらを使っただいてよいと思います。
4. かゆみ、発赤、きれつ等を生

じ、湿疹になってしまった場合は、湿疹



の治療が必要です。副腎皮質ホルモン剤や亜鉛華軟膏を外用して治します。かゆみが強いときは抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤を内服してかゆみを止めましょう。夜に、無意識に引っ掻くことによって、湿疹はさらに悪化するからです。

5. 皮膚表面の水分は口からとつてもふえません。皮膚が乾燥しているからといって水をたくさん飲む必要はありませんし、皮脂欠乏といわれても脂っこいものを食べる必要はありません。かえって心臓に負担がかかったり、糖尿病や高脂血症が悪化したりします。皮膚の乾燥の予防は皮膚表面のケアで行いましょう。
6. 冬のかゆみは乾燥性湿疹がちばん多いですが、内臓の病気でかゆくなることもまれにはあります。かゆみのため皮膚科を受診して、はじめて糖尿病が見つかった方は何人もいらっしゃいます。かゆみが続くときは、皮膚科を受診してください。



防災訓練を実施して

火災発生時に大切なことは「通報・連絡」「初期消火」「避難」の3つです。「通報・連絡」は消防署への通報だけでなく、院内にいる人への通報も含まれるのですが、なかなか「火事だ」の最初の一言が大声で言えないようです。訓練と言うことで遠慮してしまう人が多い中で、11月13日に実施した訓練では、大きな声でとても良かったと思います。訓練の回数もそう多くはないのですから、参加する機会があったら、ぜひ大声を出してください。次の「初期消火」は、実際に消火器、消火栓を使ったことがある人は少ないと思いますが、訓練時には必ず訓練用の水消火器を使って実

際に放水をしますので、イザという時は慌てることなく消火できるのではないのでしょうか。まだ一度もさわった事がないようなら、次回は進んで参加してください。最後の「避難」ですが、訓練のときは屋外の非常階段で下まで降りませんが、動けない患者さんを階下まで運ぶことは大変です。しかし、火災がおきても防火戸によって区切られている反対側の区画に避難さえすれば、数分後には必ず救助がきますので、動けない時はそこで待っていてください。防災訓練に参加することは、頭でなく体で覚えることですから、皆さん積極的に訓練に参加してください。





11階病棟紹介

11階病棟 師長
佐橋 昇子

私たちの病棟は4科（呼吸器内科・泌尿器科・歯科口腔外科・眼科）47床の混合病棟です。慢性疾患を多く含む呼吸器内科と手術が主となる外科系3科の病棟で看護の内容も大きく違いますが、やりがいのある職場です。



呼吸困難に苦しむ患者さんの苦痛を如何に緩和できるかカンファレンスを行い、吸入法は呼吸体操を導入したり、また泌尿器科、歯科口腔外科、眼科においてはパス



入院を実施、昨今、日帰り手術が主流の中、患者さんの安全と不安の軽減を考慮した入院治療・看護を行っています。毎日入退院の激しい病棟ですが、退院が多い分、元気になった患者さんを見送る喜びも一層多い病棟です。スタッフ全員22名（師長、主任代行、看護助手1名を含む）は元気一杯、美人の女医さんやナースマンもいて華やかで、力強く、活気あふれる素敵な職場です。11階ということもあり眺望は最高、ベッドにしながら名古屋城も見え、患者さんや家族の方の心の癒しになる療養環境を誇っています。

先日、ちょっと嬉しいことがあ

私たちの働く美しい姿です



ったので皆さんに紙面でお知らせしたいと思います。（自慢）

泌尿器科に入院された患者さんが私たちの働く姿が美しい？と《絵》にしてください、絵画展に出品されました。腕前が素晴らしい、「あっ！これ私だわ」などと盛り上がり、とても嬉しかったので紹介します。

今後も皆さんに愛され信頼され、安全・確実な治療・看護を目指し、これからもより一層頑張っ



第55回共済医学会シンポジウムに参加して

医療福祉相談室 室長
小林 哲朗

去る10月25日～26日に大阪国際交流センターで開催された今回の学会は、国家公務員共済組合連合会職員700名を超える参加者があり、分科会も300以上の演題発表がありました。当院からは看護部と放射線科から合わせて10題の分科会の発表がありました。

「高齢者入院治療の諸問題」をテーマとしたシンポジウムには、新小倉、横浜共済、浜の町、横浜北部共済、呉共済、高松、新別府病院のシンポジストの方々と席を並べて報告をしました。「名城病院における退院支援システムの取り組み—要援護高齢者の早期発見の試み—」と題し、パワーポイントを用いて発表しました。内容は急性期病棟での退院患者の状況や当院療養病棟の有効活用、退院支

援を行ったケースの日常生活動作（ADL）や相談時間の分析を説明しました。そして要援護高齢者の早期発見には病棟やリハビリスタッフとのカンファレンスや患者情報カードなどによる情報の共有ができるツールの開発が重要であり、早期に支援開始することは在院日数の短縮に貢献することが可能であることを多変量解析を基に報告しました。さらに本年度の試みとして、入院前から整形外科の手術予定にある患者さんの外来での面接を開始したことも補足しました。他のシンポジストからは、転倒・転落のリスクマネジメントや栄養サポートチーム（NST）、退院支援後の追跡調査を行っている取り組みもあり、今後の業務を考える上で大変参考になる報告がありました。



来年の共済医学会は会頭病院が東海病院となり名古屋市で開催されることが決まりました。当院は幹事病院として学会の運営のサポートをすることになり、既に打ち合わせがはじまりました。連合会の学会であるので、それぞれの部署から日頃の仕事の成果を発表する一つの機会になると良いと思います。

また、他の連合会病院の人たちとも交流ができる良いチャンスです。名古屋コーチンと味噌煮込みうどんなどなど多くの人が期待しているようです。来年に向けて頑張らしましょう。



臨床検査情報

—血液型について—

検査科 輸血管理室
大江 幸雄

血液型は人間にとってどのような役割を果たしているかはまだよくわかっていませんが、輸血や臓器移植、遺伝、法医学などの分野で大変重要です。

血液型はABO式血液型がよく知られていますが、これは赤血球の血液型です。他にもRh式血液型など現在見つかった赤血球の血液型は29の血液型システムがあり、血液型物質（抗原）は約300種類と言われています。

また、血液型は赤血球だけでなく白血球でも多くの型があり、HLA（ヒト白血球抗原）とよばれ、特に骨髄移植や血小板輸血などで重要です。血小板にも多くの血液型があります。今回は、その中でも特に重要なABO式血液型について説明します。

ABO式血液型は、1900年（明治



A? B?
AB? O?

33年)にラントシュタイナーによってA型及びB型が、翌年C

型が発見されました。その翌年に、デカステロとスターリによってAB型が追加発表されました。発見当時C型とされた血液型は1927年（昭和2年）に国際連盟で呼称をO型に統一されました。

ABO式血液型は、赤血球上のA及びB抗原の存在を確認するオモテ検査と血清中の抗A及び抗B抗体の有無を確認するウラ検査を行い、双方が一致して血液型が確定されます。この理由としては、それぞれに通常とは抗原量が少ない“亜型”と言われる血液型があるからです。

日本人のA型のほとんどはA₁型と言いますが、A₂型（A型の0.2%程度）という型もあります。

A型の亜型だけでも10種類ほどが知られています。A型以外の型でもそれぞれ多くの亜型があります。これらの亜型は、オモテ・ウラ検査の不一致で見つかることが多いので、輸血のときに大変重

要となります。

また、血液型は後天的に変化することもあります。骨髄移植等では型物質が変化する事もあり、直腸癌等である種の細菌感染によりA型がAB型に変化する事もあります。これを後天性B型と言います。

抗A及び抗B抗体は、生後3～4ヶ月頃から産生されますので、乳児の場合は、生後1年を過ぎてから血液型検査をした方が良いでしょう。

ABO式血液型の頻度は日本では、A：O：B：ABが、4：3：2：1ですが、これは民族により違いがあり、米国・豪州ではO型、アジアではB型が比較的多く、地域・人種によって特徴があるようです。

ちなみにRh式血液型のRh（-）は日本では0.5%ですが、欧米では、10～20%と言われています。

編集後記



写真は名古屋市名東区の大石神社にある猪子石です。この猪の形をした猪子石は地名の由来にもなっておりユニークな話が伝えられています。この猪子石は猪子石神社の牡石（おいし）と大石神社の牝石（めいし）があります。大石神社の猪子石には、小さな石がいくつも付着しているところから子持石ともよばれ、昔、出産間近の女性が多産な猪にあやかうとこの石に祈願し、無事に出産を終えることが出来ました。このことが評判になり、みんな出産が近づくとこの石のところにやってきて安産祈願をするようになりました。やがてこの石の前に鳥居が建てられ大石神社ができたそうです。今年もたくさんの方がご出産されることと思い、お参りしてまいりました。ご出産が安産でありますよーに。（F.O）

名城病院診療等のご案内

■ 診療科目

内科・循環器科・小児科（小児循環器）・外科
整形外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科
産婦人科・眼科・歯科口腔外科・神経内科

※神経内科及び午後の診療等、詳しくは 医事課 (052)201-5311
内線2132 にお問い合わせ下さい。URL <http://www.meijohosp.jp>

※医療福祉に関するお問い合わせは、医療福祉相談室 内線 5105まで

■ 診療受付時間

新患受付 午前8:30～11:30まで
再来受付 午前8:00～11:30まで

■ 面会時間

平日 午後0:30～8:00まで
土・日・祝

但し、①小児科病棟は、午後7:00まで

②ベビーの面会は、
午後0:30～1:30まで
午後3:30～4:30まで
午後6:30～7:30まで

の3回です。
③ICU室への面会は30分以内に限らせていただきます。

■ 診療案内

休診日 土曜日・日曜日・祝日
年末年始（12月29日～1月3日）・創立記念日（11月6日）

■ 所在地

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1
TEL (052) 201-5311 FAX (052) 201-5318